

午後 試験

問 1 (システム監査における IT の利用について) は, 3 問の中で最も選択率が低かった。監査の経験を前提とした問題としてとらえられ, 日ごろ監査業務に従事している受験者に選択が限られたものと思われる。設問イでは, IT 監査技法については論述されているが, 監査要点に結び付けて具体的な監査手続まで踏み込んだ論述は少なかった。また, 設問ウでは, 問題文に事例を挙げ, IT 監査技法を用いる場合の組織的な留意事項についての論述を期待したが, 監査人としての留意事項だけを論述したものが多かった。

問 2 (情報システムの調達管理におけるシステム監査について) は, 選択率が最も高く, 情報システムの開発やパッケージの導入に関わる調達についての論述が多かった。調達プロセス全体の観点から, 具体的なリスクとコントロール, 監査手続を論述することを期待したが, システム開発におけるプロジェクト管理の内容や調達プロセスの一部の内容, 又は一般的で具体性のない論述が多く見受けられた。

問 3 (情報システムを利用したモニタリングとシステム監査について) は, 選択率が高く, 多くの組織がモニタリングを実施するようになった社会的背景についてはよく理解されていた。しかし, 受験者自身が関係する組織におけるモニタリングの意義や効果をシステム監査人の視点で的確にとらえた論述は少なかった。また, 設問ウでは, モニタリングに関するシステム監査の手続ではなく, モニタリング自体の手続を論述したものが多かった。